

刊行に寄せて

東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構（以下 CoREF）は、平成 22 年度から大小さまざまな市町教育委員会及び学校等と「新しい学びプロジェクト」、埼玉県教育委員会と「県立高校学力向上基盤形成事業」、「未来を拓く『学び』推進事業」という協調学習を引き起こす授業づくりのための研究連携事業を行ってきた。

また、今年度はこうした研究連携の成果を活かしながら、埼玉県や鳥取県、千葉県柏市といった自治体の研修事業に協調学習を取り入れていただき、協力して研修プログラムの開発、実施を行ってきた。

いずれの事業でも私たちは現場の先生方と連携して、「人はいかに学ぶか」について今研究分野でわかってきていることを基盤に、教室で行われている授業の質を上げ、子どもたちが自分たちで考え、理解し、次に学びたいことを見つけ出していける新しい学びのゴールを追求してきた。また、私たち研究者、教員、そして様々な分野の社会人専門家のコミュニティが緩やかに重なりながら、こうした新しい学びのゴールに向けて、それぞれの専門性を活かし、教室の事実学びながら継続的に授業の質を上げるためのネットワークを構築することも私たちの目標である。

本報告書の作成及びその基本となった事業においては、「新しい学びプロジェクト研究協議会」参加の 9 県 16 団体、埼玉県教育委員会、鳥取県教育委員会、千葉県柏市教育委員会、日本産学フォーラム、日本技術士会、日本機械学会のみなさまに多大なご支援、ご協力をいただいた。この場を借りて感謝を表したい。

本報告書は以下の 5 章から構成される。

第 1 章では、まず研究連携・協力事業によって立つ協調学習の理論的な考え方についてのリファレンスを紹介している。続いて、3 年間の研究連携で起こっている学びの成果を「子どもの学び」、「教員の学び」、「研究者の学び」という 3 つの視点から整理した。「子どもの学び」の節では、アンケートと事例の分析から研究連携で見られる子どもの学びの姿を描写し、研究連携の先に私たちが目指す子どもの学びの姿を提示した。「教員の学び」の節では、授業づくりの PDCA サイクルをまわす研究連携において、一人ひとりの先生方が授業づくりについて言語化できることがどのように変わってきたかを示した。「研究者の学び」の節では、私たち研究者が教室での子どもの学びの姿をどんな視点から捉え、そこから何を学んでいるのか、いくつか具体例を挙げて紹介している。

第 2 章では、CoREF と自治体及び産業界との研究連携・協力事業の基本的な枠組みと今年度の取組の概要を紹介している。ここで紹介しているのは、自治体、学校等との研究連携として、第 2 節に「新しい学びプロジェクト」、第 3 節に「未来を拓く『学び』推進事業」、自治体の実施する研修事業のプログラム開発、実施に CoREF が協力したものと

して、第4節「21世紀型スキル育成研修会」、第5節「埼玉県高等学校初任者研修」、第6節「柏市小中学校5年経験者研修」である。最後に第7節「社会人・産業界との授業改善連携」として、CoREFが発足時から一つのテーマとしている社会人・産業界の専門知を授業改善に役立てるネットワークづくりについても報告している。続く第3章、第4章の実践についての振り返りの前提となる情報が報告されているのがこの第2章である。

第3章では、「協調学習の授業づくり連携の振り返り」として、連携・協力事業に参画いただいている実践者、学校管理職、教育委員会担当者、産業界、教育研究者らによるそれぞれの視点からの取組の振り返りを掲載している。それぞれの文脈を持った関係者がそれぞれなりの既有知識や経験を、知識構成型ジグソー法を用いた協調学習を引き起こす授業づくりというひとつの課題を媒介にして、目指す新しい学びのゴールに向けて統合し、再構成しながら深めた理解の一端を示していただいている。これからこうした連携に関わりたいと思ったださっている読者の方、既に関わっていただいている読者の方に、ご関心のある視点を中心に是非ひとつお読みいただきたい。

第4章では、私たちCoREFが研究連携・協力事業のためにデザインしてきた研修パッケージをご紹介します。現在CoREFの研修パッケージは、「①目指す学びのゴールについての理論的な理解」、「②知識構成型ジグソー法の枠組みで協調的に学ぶ体験」、「③本時の学習者個々に注目した学習の小さな評価の実践」、「④授業づくりを通じた知識構成型ジグソー法の枠組みの捉え直し」、「⑤教材開発、実践、評価・反省のサイクルを協同でまわす」の5つのエッセンスで構成されている。これらのエッセンスをどんなプログラムに反映し、それを具体的な各研修の目的、ニーズに応じてどのようにアレンジしているのかを報告する。もちろん、こうしたパッケージは現時点でのベストであると同時に、今後さらなる改善が期待されるものでもある。事業ごとに、次年度に向けての研修パッケージの改善点もあわせて整理してある。

第5章は、3年間の研究連携の成果を集めたデータ集である。データは実際にご活用いただける形で付属のDVDに収録されている。「新しい学びプロジェクト」で開発実践した102の教材、「県立高校学力向上基盤形成事業」、「未来を拓く『学び』推進事業」で開発実践した155の教材について、授業案や教材、実践者の振り返りコメント、児童生徒の記述例（一部教材のみ）が収められている。また、実践動画として、これらの教材の一部を用いた授業風景の動画も収録している。あわせて、私たちが研修等で行っているスライドを用いたレクチャーも動画で収録してある。レクチャーの内容は、協調学習の基本的な考え方及びその背景にある「人はいかに学ぶか」についての学習科学の知見、新しい学びを評価する評価についての考え方である。初めてご覧になる方も、既に何度か聞いたという方も、ご都合にあわせてご活用いただけたら幸いである。

東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構

副機構長 三宅 なほみ